

C60 1 古希おめでとう

仙台・西公園で誕生祭 愛好家、製造70年祝う

仙台市青葉区の西公園に市民の手で保存・展示されてきた蒸気機関車(SL)「C601」が6日に製造から70年を迎えるのを前に3、4の西口、「古希」を祝う誕生祭が現地で開かれた。

誕生祭は仙台市蒸気機関車C601保存会が企画。

C601の前で来場者を撮影して写真を無料配布したほか、隣接する市民会館でC601の往年の雄姿を振り返る写真展を開き、大勢のファンらが訪れた。

古希を祝い、かつてC6



01がけん引した特急列車「はつかり」を模した、70の文字の上を2羽のマガンが舞う特別ヘッドマークの写真も付けた。

C601は1942年に「C59形」として製造され、53年に「C60形」の1号機に改造された。国鉄時代の68年まで東北線を走り、皇族が乗った特別列車を引いたこともある。同年10月の

唯一現存 往年の雄姿いつまでも

東北線全線電化に伴い引退し、69年に現在地に設置された。現存するC60形は西公園にある1両しかないという。

岩手県のJR釜石線を走り今年6月に運行を終了した「SL銀河」にも乗車したことがある若林区の会社員丹野泰典さん(61)は「SL銀河の汽笛の音に魅了され、ファンになった。西公園のSLもずっと保存してほしい」と興奮気味に語った。

87年の国鉄民営化後、JR仙台駅で初代駅長を務めた保存会の高橋秋男会長(89)＝太白区＝はC601を前に「汽笛の音が聞こえてくるようだ」と感慨深げ。

「SLを愛する多くの人に来てもらえてよかった。われわれと同じように長生きしてもらわなければ困る」と満足そうに話した。

保存会は18日、約120人いる会員総出でSLの汚れを落とす秋の清掃活動を予定している。



西公園のSL「C601」と記念撮影する家族連れ。4日、仙台市青葉区の西公園北側